

# OKoTaC 通信

オコタック

2013年10月10日発行

## NO.13



『多文化にふれる えほんのひろば』にて

**P 2-3 NPO活動報告**

『多文化にふれる えほんのひろば』

**P 3 イベント情報(1)**

**P 4 多文化な子ども@大阪のニュース**

『中国にルーツをもつ子どものための中国語“母語”教室』

『こどもひろばはじめて体験ツアー2013 ぶどう狩り』

**P 5 地域の子ども支援教室から⑬**

『Minami こども教室』(大阪市中央区)

**P 6 Air Mail メキシコ便り⑫**

『キラパジュンコンサート』

**P 7 特別寄稿**

『いつ教えるか? 今でしょ!』～日本語習得状況に添った学ばせ方～

**P 8 イベント情報(2)**





## おおさか子ども多文化センター 活動報告

### 『多文化にふれる えほんのひろば』

#### ～出会ってわくわく！いろいろなおはなし、せかいのいろいろなおともだち』

9月7日(土)、8日(日)の2日間、西区の大阪市立中央図書館・大会議室で、子どもゆめ基金助成事業「多文化にふれる えほんのひろば」を行いました。

絵本を自由なスタイルで楽しめる「ひろば」で、地域に住む外国から来た親子には普段なかなか目にする機会のない母語の絵本を楽しんでもらい、また日本人には身近な多文化の存在を知ってもらいたい…という趣旨のこの企画は、昨年続き2度目の開催です。日本語・外国語あわせて16言語、約650冊の絵本をずらりと並べた会場には初日からたくさんの方が訪れ、来場者は両日でのべ1400人以上にのぼりました。



1日目の「多言語おはなし会」では、5つの言語のボランティアさんに、それぞれの母語で絵本の読み聞かせをしてもらいました。『おおきなかぶ』や『きんぎょがにげた』など日本でもよく知られた作品の翻訳本では、かぶを抜かけ声「うんとこ



しよ、どっこいしょ」を、会場の子もたちも一緒にシンハラ語で「ヘーラヘレイ、ヘレイヤー」と声を揃えて参加したり、韓国語と日本語で交互に読み聞かせをしてもらう中で発音がそっくりな言葉を発見したりと、楽しみながら他言語のひびきを体験しました。また各国オリジナルの作品の中には、その国の食文化をベースにしたおとぎ話や、トイレにまつわる伝統的な風習が盛り込まれたお話など、絵もストーリーも個性的なものが多く、会場いっぱい集まった参加者たちは興味津々に聞き入っていました。

2日目は、『お話のはじまりのお話』と題して、絵本翻訳家の三浦恭子さんに南アフリカの暮らしについて講演いただきました。同タイトルの絵本を昨年翻訳出版された三浦さんは、ご自身の体験に基づいた南アの人々の考え方や、作品の挿絵にもなったマブラ刺繍、その背景にある豊かな口承文学の伝統などについて語っていただきました。

その後の『おはなしと音楽でペルーを感じてみよう』には、ペルーにルーツを持つ大阪在住の子どもたちのグループ“ナスカ”が出演。ペルー人のお母さんによるスペイン語での読み聞かせと、子どもたちによる各地方の伝統的な踊りが披露されました。自身のルーツの文化を誇らしげに紹介する子どもたちの迫力のダンスと、アンデスの雰囲気漂うおはなしの世界に会場の人たちは引き込まれ、大きな拍手を送っていました。

イベント実施にあたっては、今年も多く日本人や外国人のボランティアの方が関わっていただきました。『世界の文字で自分の名前を書いてみよう』のコーナーでは、5つの言語のネイティブの方々が楽しく丁寧に教えてくださり連日大盛況。佐野高校で学ぶロシア人の姉妹は、今回初めて登場したキリル文字の指導で大活躍してくれました。



おはなし会で中国語を担当してくれたのは、八尾北高校の中国出身の生徒さん2人でした。最初は少し恥ずかしそうでしたが、応援に駆けつけてくださった絵本アドバイザー・加藤啓子さんの助言のもと直前まで一生懸命に練習し、本番では見事に読み聞かせを楽しく掛け合いで披露してくれました。2人の初々しい雰囲気と優しい中国語の響きがとても好評でした。

また今年は、会場に展示した多言語の絵本を手に取り「読んで」と外国人スタッフにリクエストする日本人の参加者も多く、会場のあちこちで交流が生まれる場面が見られました。長吉高校をこの春卒業したペルー人学生も、ボランティアは初めてながら、嬉しそうにスペイン語で絵本を読み聞かせてくれ、そこから日本人親子と次々に会話が弾んでいきました。と同時にこのイベントで、スタッフとして来てくれた外国にルーツを持つ子どもたち同士が出会い、仲良くなって、仲間の輪を広げていく様子も嬉しいことでした。

絵本を通じて異なる文化や考え方を知ること。母語を活かして自分らしさを発信する機会と、エンパワーメント。参加と仲間づくり。いろいろな人がそれぞれの方法で楽しめる、親しみやすい“絵本”というツールだからこそ提供できるさまざまな可能性を、あらためて感じた2日間でした。

(A. N) ノ

## えほんのひろばに参加して——

(ボランティアスタッフ 松島 恵)

かわいいイラストの大きな絵本に出迎えられ部屋に入ると、そこには何百冊もの絵本が並んでいます！「好きな本、持っておいで。読んであげるよ！」と言うと、子どもたちは走って絵本を取りに行き、「じゃあ、交代でね」とお友だちが選んだ本も一緒になって楽しめます。読み終わると次はこれ、次はこれ…外国語の絵本まで！「読んでくれる人がいるからちょっと待っててね」。

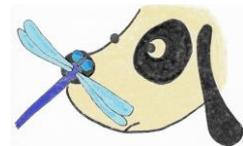
次は“かまきりっこ探し”に行こう！と今度は 219 匹のカマキリを絵本の一場面から探し出すゲームへ。1 匹ずつ名前のついた個性豊かなカマキリですが、探してみると意外と難しい。一部のカマキリは、名前がいろんな国の文字で書かれています。

子どもたちは言葉に関係なく絵本の世界に入りこんでいき、外国人スタッフも言葉の壁を越え、すぐに会場の人たちと打ち解けていきました。会場で同じ絵本が色々な言語のタイトルで並んでいるのが印象的でした。絵本の楽しさは世界共通ですね。また次回が楽しみです。



## イベント情報 (1) 多言語進路ガイダンス

府内にいる外国から来た中学生が府立高校に進学する際に必要な情報や、それぞれの高校について、いろいろな説明を受けることができます。



地区	開催日	時間	会場
豊能	11月9日(土)	13:00~16:00	とよなか国際交流センター
三島	11月2日(土)	13:30~	高槻教育会館
北河内	10月13日(日)	13:00~	寝屋川市立中央小学校
中河内	10月28日(月)	16:30~	八尾市役所大会議室
	11月8日(金)	19:00~	八尾市役所大会議室
	12月7日(土)	14:00~	東大阪市立縄手小学校
南河内	10月13日(日)	13:00~	富田林消防署
	10月27日(日)	13:00~	富田林消防署
泉北	10月27日(日)	10:00~	堺市立南図書館
泉南	10月20日(日)	13:30~16:00	府立佐野高等学校

この表の日時は予定です。参加される場合は、必ず以下の機関に問い合わせと申し込みをして下さい。

在住地区の教育委員会、あるいは

大阪府教育委員会事務局市町村教育室 小中学校課 進路支援グループ

TEL 06-6941-0351(内線 3504)



## 『中国にルーツをもつ子どものための「中国語“母語”教室」』

(にほんごサポートひまわり会)

当会に来ている中国にルーツをもつ子どもの多くは、幼い時に来日したか、日本生まれです。両親は中国出身で、家庭では中国語あるいは日本語・中国語の両方を使っています。彼ら彼女らのために「中国語“母語”教室」を開きたいと思いましたが、子どもを教えられる中国人講師がなかなか見つかりませんでした。

おおさか子ども多文化センターに相談したところ、かつて北京で小学校教員をしておられ、来日後は府立高校の教育サポーターや中国語講師として活躍しておられるS先生をご紹介いただきました。

S先生にお願いして、夏休みに5回、小中学生5人を対象に「中国語“母語”教室」を実施しました。初日、後ろで見ている、子どもたちの中国語の発音が不明瞭で、あまり話せないことにショックを受けました。家で中国語を使っているのだから、もっと話せるし発音も正しいだろうと思っていたのです。母音・子音のカードを使ったり、西遊記の絵本を見たり、ゲームをしながら、S先生に楽しく発音や単語を教えていただいで、5回目には一人ずつ大きな声で唐詩の暗唱ができました。

保護者の関心が高く、数人が自発的に授業を見学に来られ、終了後に取った保護者アンケートには全員が「今後も継続してほしい」と書かれていました。S先生が「今回の経験で、ひまわり会だけでなく私の住んでいる地域でも、子どもたちに中国語を教えたいと思うようになりました」とおっしゃったのもうれしいことでした。



(にほんごサポートひまわり会 斎藤裕子)



## 『こどもひろばはじめて体験ツアー2013 ぶどう狩り』(こどもひろば主催)

9月8日に「こどもひろばはじめて体験ツアー2013 ぶどう狩り」を開催しました。外国にルーツを持つ高校生と大学生19名と大人スタッフ10名、合計29名が参加して富田林サバーファームに行きました。朝は大雨でしたが、ありがたいことに行動する時には止んでくれました。初めはメインのぶどう狩りでした。一房目のぶどうは美味しくてみんなのテンションは高かったですが、二房目からはお腹いっぱいという感じでした。お土産として二房を持って帰れることは、もう一つの楽しいところでした。お昼はバーベキューで、トランプを使って同じ番号を引いた人は同じテーブルに座ってもらいま



した。学生たちはやはり友だち同士が固まる傾向なのでちょっとバタバタしました。テーブル内で自己紹介をして焼肉を食べながらおしゃべりが盛り上がりました。初対面の人たちはコミュニケーションを通じて距離感を縮めることができました。午後からは野菜狩りです。サツマイモ、シシトウ、キャベツ、ピーマンの中から一つを選んで班ごとに行動します。雨で地面はぬかるんでいましたが、一番人気なのはサツマイモでした。みんな疲れたみたいでしたが、帰るころには初対面の人たちが打ち解けておしゃべりをする様子も見えました。

今回は初めて実行委員長を勤めさせてもらいましたが、いつ、何をどうするかは全く想像がつかなくてすごく心配でした。日本語がまだ分からない子も何人かいて、全員に指示をきちんと伝えられているかも非常に気になりました。実際には心強い方が沢山いて、所々助けてくれましたので、何とかスムーズに活動を終わりました。みんなの前に立って、注目を浴びながら話をするのは、意外に気持ちよかったですと今回の経験を通じて気づきました。(こどもひろば 薛鴻涛)



### 『Minami こども教室』 (大阪市中央区)

大阪市は政令指定都市の中では、人口に占める外国人登録者数の比率が最も高く、とりわけ中央区は域内に日本有数の繁華街がある関係上、外国人登録者数増加率は大阪市内でもトップクラスです。区内の小学校にも、13以上の国からの子どもたちが通っています。

中でも南小学校は全児童の約4割が外国にルーツを持つ子どもで、その中には、日本語での学習に困難を抱えたり、仕事が忙しい保護者との時間がもてずに学校から帰っても一人で過ごすケースが多くみられます。こうした子どもたちの学習支援と居場所づくりをしてあげたいという、南小学校の思いに賛同したNPO等が連携し、放課後学習支援教室「Minami こども教室」を立ち上げました。



教室開設の準備では、外国人の子ども支援に取り組んできた複数のNPO等からなる実行委員会を立ち上げ、今年5月から運営体制を検討してきました。学習の指導員としては、ボランティアを募集して応募者に対する養成講座を実施し、外国ルーツの子どもたちの抱える課題や、「Minami こども教室」の運営にあたり必要なことを学んでもらいました。ボランティアには、教員や他の教室で活動している方から、初めて子ども支援をする方までいろいろな方に集まってきました。

全くの白紙状態から体制作り、資金・人材集め、教材・会場確保を行い、なんとか9月の教室開始の日を迎えましたが、どのぐらいの数の子どもが参加するかは未知数で、最初は全然集まらないかもしれないと考えていました。ところがふたを開けてみれば、初回は10人の子どもの参加があり、その後も続けて教室に通ってきています。教室は18時～20時ですが、子どもにとってはこの時間帯の勉強はしんどいことで、集中力が切れることもあります。それでもたくさんの子どもがいきいきと学習に取り組み、毎回喜んで教室に通ってきてくれます。子どもたち自身が学習の必要性を

感じて熱心に取り組んでいるように思います。また週1回ではありますが、この教室が子どもたちの居場所となっていることで、やはり子どもにとって必要な支援なのだと感じています。「他の曜日もあるといいのに」と言ってくる子もあり、嬉しいと同時に十分な支援をしきれないのがもどかしいですが、できることから支援を続けていきたいと考えています。

その後も参加したいという子の申し込みがあり、現在15人ほどが登録しています。最初は南小学校をお借りして実施していましたが、10月から中央区の子ども・子育てプラザに移転し、本格的な教室スタートを切ります。立ち上がったばかりの教室で課題も多いですが、必要としている子どもたちのため、継続させていきたいと思っています。今年度は南小学校の子どもたちが中心ですが、本取り組みがモデルケースとなり、将来的に中央区全域で取り組める良い事例となることを目指しています。

教室は毎週火曜日の18時～20時です。ぜひ子どもたちの様子を見に来てください!

(関西国際交流団体協議会 松本彩)

会 場 : 中央区子ども・子育てプラザ (住所 大阪市中央区島之内2-12-6)

問合せ先: Minami こども教室実行委員会事務局 (特活) 関西国際交流団体協議会(担当: 松本)

TEL: 06-6944-0407 FAX: 06-6944-0408 E-mail: minami.kodomo.k@gmail.com



海外からのたよりをお届けします～

## メキシコ便り⑫ 「キラパジュンコンサート」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

7月3日、メキシコ・シティーのメトロポリタン劇場でチリのフォルクローレグループ、キラパジュンのコンサートがあり、前から2番目の席がゲットできたので、ワクワクドキドキで聴きにきました。

彼らは 1970 年、チリにおいて、世界で初めて選挙による社会主義政権を誕生させた人々の意識をつくったヌエバ・カンシオン(新しい歌の運動)の担い手たちで、1973 年、ピノチェットによる軍事クーデターが起きた時に、たまたま外国公演をしていたため、アジェンデ大統領やビクトル・ハラのように殺されずにすんだ人たちでした。

ヌエバ・カンシオンという運動は一人の女性歌手ビオレタ・パラにより始められました。パラは 1917 年チリ南部のチジャンで生まれ、15 歳くらいから盛り場で歌い始めます。彼女はチリの北から南までギター1本持って旅をし、昔から歌われてきた民謡を採譜し、それらの歌を復興させました。そして古い歌に新しい息吹を吹き込み、アメリカ合衆国に苦しめられている民衆の気持ちと、彼らのめざすべき方向性を示しました。そしてペーニャ(ライブハウス)「カルパ・デラ・レイナ」を作り、数多くの優秀なフォルクローレ演奏者を育てました。そんな中に、当時チリ大学の学生だったビクトル・ハラもいたのです。そしてその彼と一緒に活動していたのがキラパジュンだったのです。

三十数年前、彼らが京都に来たとき初めて彼らの歌を聴き、「エル・プエブロ・ウニード・ハマス・セラ・ベンシード」(団結した人民は決して負かされることはない)というスペイン語の掛け声とともに歌うその力強い『不屈の民』に感動し、私はラテンアメリカ大好き人間になってしまったのでした。そしてそれが嵩じて今ではメキシコでスペイン語を勉強しているわけです。



3200 人は入るといふその劇場はほぼ満員で、冒頭からスタンディング・オベーションで始まったのにはちょっとびっくりしてしまいました。やはりメキシコの観客は熱い！いつもながらの黒のマントをまとったキラパジュンは頭が真っ白になっていましたが、その歌声はあの時のままでした。まさかメキシコで彼らに再び会えて、一緒に『不屈の民』を歌うことになるなどとは思っていませんでしたので、とても不思議な縁(えにし)を感じてしまいました。

そんな彼らが第 1 部で歌ったのが『イキーケのサンタマリア』という 45 分に及ぶカンタータで、これはチリ北部にあるイキーケという街で 1907 年 12 月 21 日、待遇改善を訴えてデモをしていた硝石工場の労働者やその家族にロベルト・シルバ・レナルド将軍率いる軍隊が発砲し、2000 人余りが死んだという史実に基づいて、イキーケ出身の作曲家ルイス・アドビスがキラパジュンのために作曲したものです。古いデモなどの写真スライドと女性の朗読、そしてキラパジュンの歌声が創り出す世界は、1902 年から 1908 年までひんぱんにチリで起こった硝石工場労働者と軍隊との衝突の歴史の悲惨をあますところなく伝えていました。私はこの作品を聴いたとき、イキーケに行ってみたくなり、長い夏休みを利用して、アルゼンチン、パラグアイ、チリとまわることにしました。





## 特別寄稿

「いつ教えるか？今でしょ！」

～日本語習得状況に添った学ばせ方～

大阪市立市岡中学校(帰国した子どもの教育センター校) 井上 泰雄

編集部より

このたびは特別寄稿として、おおさかこども多文化センターの会員でもある井上先生に「学習言語」について執筆していただきました。長年のご経験から得られた貴重なご意見は、帰国・渡日の生徒に関わる者にとって非常に示唆に富んだものであると思います。

「生活言語と学習言語」、7年前にこの仕事「帰国した子どもの教育センター校」に就いてから何度も聞いた言葉だ。言語には、生活言語と学習言語があり、生活言語の習得は早い、学習言語の習得には5年以上かかるという。そんな学説が、帰国・渡日生徒は学力が低い、もしくは上がりにくいという話に絡めて使われる時がとても多い。はたしてそうなのか？

このことに対して初めて疑問に思ったのは、「帰国した子どもの教育センター校」に赴任する前に一般校で理科と渡日生の抽出授業(理・数)を兼任したときの経験からだ。日本語を習得するために、センター校に通級していた子どもたちが、確かに最初は、テストの点数が1ケタ前後からのスタートだったが、1～2年で成績は伸びていった。また、現在勤務しているセンター校でも、日本語以外に理科を教えてと言ってきた生徒の一人は80点を超えるまでになった。そして、今春から通級している子は、日本語が初級であるにもかかわらず、一学期中間テスト20点台から期末テスト50点台へと短期間で30点もアップした。

こんな経験の中で感じたことは、教える側が子どもの気持ちを本当にわかっているのか、ということだ。渡日の子どもたちのほとんどは、主に親の都合で、言葉も文化もちがう異国の地、日本に来る。そして、日本語の教科書で日本語の授業を受ける。その苦痛は大変なものがある。そして、一ケタ前後の、ときには0点というテストの点数を突きつけられる。子どもの気持ちがどれほど傷つくだろう。心の中の叫びが聞こえてくる。「私は、勉強がわからないんじゃない、日本語がわからないだけ」。この子たちは5年も待てない。

カナダの言語学者カミンズは「外国人児童生徒が母語話者レベル(日本の場合、同学年の日本人生徒)に迫り付くためには、学習言語に接触を始めてから少なくとも5年以上は必要である」と言っている。教科学習での言語的にも高度な文章を理解し、考え、使用するという日本語能力の習得には時間がかかるし、それに対応した手だてが要りますよと、学者の方々は5年以上という数字を示しながら言われているのだろう。しかし、このことは現実には、この子たちは学習言語がわからないのだから仕方がないと、教科を理解させようとするアプローチをしなくて放置することを、正当化(悪意はなく無意識に)させている。私はそのことを危惧する。



学習は言葉をベースに行う。学習は次の高次の学習につながり、学習したことは、脳に残っている。言語環境が違う異国の地に来て、脳の中の知識は消えていないし、考えることもできるのだ。だから、これまでに子どもたちが履修した知識を活かすこと。日本語の習得状況にあわせた教科理解のあり方を考えることだ。極論で言うと、教科内容と言語は別物と考えること、教科内容が先で、言語(日本語)は後ということだ。私の理科の授業の場合、渡日してまもない子どもには、日本語を使わず、絵を使う。そして、先に単元の大まかな教科内容を把握させ、最後にポイントを日本語で覚えさせる。また、渡日してすぐの場合は、対訳教材や母語支援があるといいし、リライト教材やデリート教材もいい。今、私は点をとることを目的とした教材を作成している。成績が上がると、元気がでる。元気ができれば困難に立ち向かう力が生まれるからだ。もう一度言う。この子たちは学習言語がわからないからだ、と、放置しないこと。渡日してすぐ、教科学習を始めること。言葉がわからなくても気持ちは伝わる。それが次につながる第一歩となる。 いつ教えるか？ 今でしょ！



## イベント情報 (2) ～おおさかこども多文化センター主催のイベントです～

### ▼ 『いろいろな国のことばで 絵本を楽しむワークショップ』

5つの言語のゲストスピーカーに母語で自分の国の絵本を読んでもらい、内容を紹介してもらいます。その後、グループに分かれて参加者が、好きな絵本をそれぞれの母語(日本語も含む)で読みあいます。絵本を通じて、いろいろな国の方と多文化の出会いを楽しみましょう。外国のお友だちも一緒にぜひどうぞ!

【日 時】 2013年11月30日(土) 14:00～16:00

【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター 5階 第4研修室 (大阪市北区梅田1-2-2-500)  
地下鉄「梅田・東梅田・西梅田」駅、阪急・阪神「梅田」駅、JR「大阪」駅

【参加費】 100円 ★好きな絵本を1冊持ってきてください。

【定 員】 30名(先着順)

【申込み・問合せ】 おおさかこども多文化センターまで、電話・メール・Faxのいずれかをお願いします。

Tel/Fax 06-6586-9477 E-mail: osakakodomo.ehon@gmail.com (←絵本イベント専用メール)

【お申込みの際は、お名前・住所・電話番号・メールアドレス・母語をお知らせ下さい】

### ▼学習会『外国にルーツをもつ子どもの学習上のつまずきと 支援のあり方 ～ 支援教育の立場から ～ 』

さまざまな文化背景や言語環境を持った外国にルーツをもつ子どもが、学校現場で経験するつまずきは多種多様です。そしてその原因が言語習得、文化の壁、家庭環境、発達障がい等に起因するのか、またはそれら各要因の複合にあるのかを見極めるのは困難であると言われています。現実には、学校生活への適応で日々困っている子どもたちへの支援方法に戸惑い、悩んでいる教員や支援者の声も多く聞かれます。このような状況を受け、支援教育の立場から見た指導の専門家をお呼びして、よりよいサポートのあり方を、ともに考える機会を持ちたいと思います。

【日 時】 2013年12月7日(土) 10:00～12:00

【場 所】 大阪府教育センター (大阪市住吉区苅田4丁目13-23)  
地下鉄御堂筋線「あびこ」駅下車①番出口、東北東へ約700m

【講 師】 伊丹 昌一さん (梅花女子大学 心理こども学部 心理学教授)

【対 象】 外国にルーツをもつ子どもの教育支援に関わる教育関係者・支援者

【定 員】 80名(先着順) 【参加費】 無料

【申込み・問合せ】 おおさかこども多文化センターまで、電話・メール・Faxのいずれかをお願いします。

Tel/Fax 06-6586-9477 E-mail: osakakodomo@gmail.com



## NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 CE 西本町ビル8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL http://okotac.org

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼロナインナイン))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

